

# 大謝名小のスタ場!!!!

2023, 5, 31(火)

第18号

宜野湾市立  
大謝名小学校  
校内新聞

「スタ場」とは、「スタートの場」「スタディの場」「スターの場」を表しています。



## 大きなうずまき雲

## ～台風のサイエンス～

2ページ  
あります

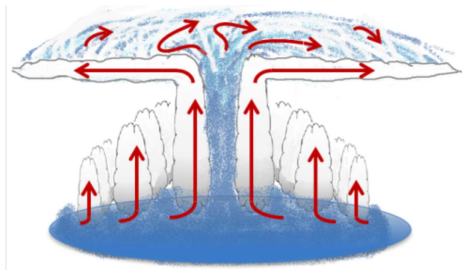
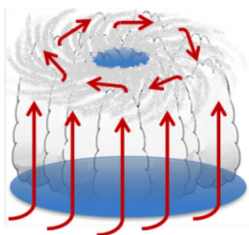
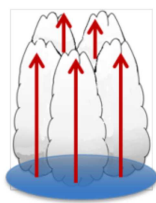
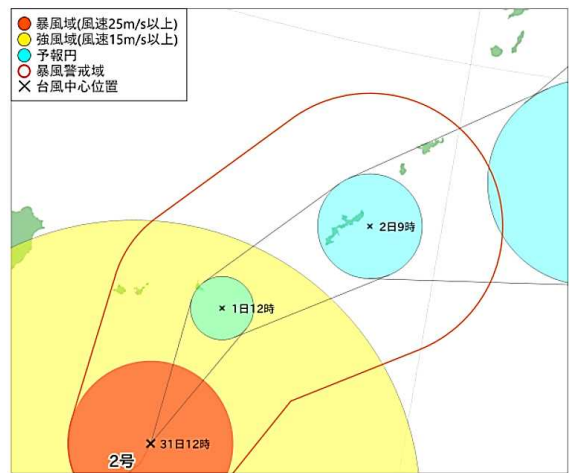
大型で強い台風2号の接近が心配されています。この後も台風の動きに気をつけて過ごしましょう。

さて、台風はどんなメカニズムで発生するのでしょうか。

台風は、熱帯の海洋上で生まれた低気圧のうち、最大瞬間風速が17.2m/s以上になったものをいいます。熱帯地方では、強い日光で海水面からたくさんの水蒸気が発生し、強い上昇気流となります（4年生の、「水は蒸発すること」「あたためられた空気は体積が大きくなること」などを学習と関係します）。

その上昇気流に、さらにまわりの水蒸気が流れ込み、地球の自転の影響でうずまき状になって台風成長します。日本の位置する北半球では反時計回りに、南半球では時計回りに風が吹き込むうずができるのです。

台風は、英語ではTyphoon（タイフーン）、インドの南側で発生したものはサイクロン、アメリカの南部やオーストラリアの東側で発生したものはハリケーンと呼ばれます。



台風の構造

今回の台風2号についても、テレビや新聞、インターネットなどの台風情報をこまめにチェックしてくださいね。また、台風が近づいて、遠ざかっていくまで、川や海に近づかないこと、外に出ないことを守ってください。命を大切に。

さて、ニュースやテレビのテロップに流れる台風の大きさや強さはどのように決められているのでしょうか。

台風の大きさの階級分け

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

気象庁は、台風のおおよその勢力を示す目安として、右の表のように台風の「大きさ」と「強さ」を表現しています。

台風の強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

台風の「大きさ」は、強風域(平均風速15m/s以上の風が吹いている範囲)の半径です。また、「強さ」は、最大風速によって区分されています。

台風2号は5月31日12時には、中心気圧が965hPa(ヘクトパスカル)、中心付近の最大風速が35m/s、風速15m/s以上の強風半径が、北側で440km、南側で700kmでした。なので、この時は「大型」で「強い」台風となるわけです。

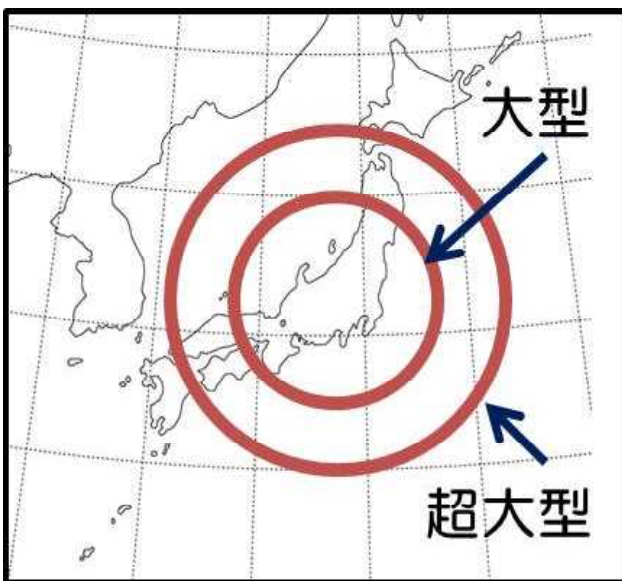
左下の図は「大型台風」「超大型台風」のそれぞれの大きさを日本列島の大きさと比較したものです。台風2号は、内側の円よりやや小さい大きさとなります。

さらに、強風域の内側で、平均風速25m/s以上の強い風が吹いている範囲を「暴風域」と呼びます。暴風域に入ると、人は立って歩くことが困難になり、建物は、飛来物で窓ガラスが割れたりします。台風の接近・通過中は不要な外出は控え、

危険な場所に近づかないようにしましょう。

さて、時々耳にする「スーパー台風」ですが、これは米軍合同台風警報情報センター(JTWC)の台風の分類の強さによる「SuperTyphoon」の直訳です。これは、最大風速が130ノット(=67m/s)を超える非常に強い台風です。日本の分類の「猛烈な」台風よりさらに強い台風なのです。

(文責：玉村かおり)



「大型」「超大型」の台風の大きさ